

オレンジカフェ静岡

6、7、8月のカフェを中止します

コロナウィルス感染防止のため、静岡市からの要請もあり、残念ですが8月まで中止とさせていただきます。

開催できる日に、元気でお目にかかりましょう。

お便り



皆さま、いかがお過ごしでしょうか？
世界中の人々の生活を、歴史的に見ればほんの一瞬で変えてしまったコロナウィルスの蔓延には、何か現実ではないような、夢でも見ているような感じがいたします。

少しずつ、これまでの日常が息を吹き返してはいますが、誰もがマスク姿で、店員さんとはビニールのシート越しです。学校もやっと再開され、子どもたちは友だちに会うことができるようになりましたが、席は離れ、活動は制限されています。

この状況は、今後もしばらくは続くことになるだろうと思われれます、

スペイン風邪の時には、二次、三次の流行の時の死者数が多かったとのことです。特に高齢者は油断できません。気を許さず、外出時には手洗いなどをしっかりと、この時期を無事に乗り切りましょう。お目にかかれず日を楽しみにしております。

皆さまのご健康を心から祈念いたします。

童謡「ふるさと」の歴史

「ふるさと」は、作詞者と作曲家が長い間不明とされていましたが、平成四年の教科書から、作詞高野辰之、作曲岡野貞一の名前が明記されるようになりました。この歌が教科書に掲載されたのは一九一四年（大正3年）です。2人は、当時、文部省唱歌教科書委員でした。2人による曲には、「おぼろ月夜」や「春の小川」などがあります。

ふるさとは、第二次世界大戦中には戦意高揚に役立たないと思われた？からか、教科書から消えました。戦後は童謡の代表曲になり、東北震災の後は、復興の歌として多くの人を勇気づけました。

作詞者の高野辰之は、明治9年に長野の農家に生まれ、小学校の代用教員、長野県尋常師範学校を経て26歳で上京、38歳の時に帝国大学文学博士号を授与されました。

「いつの日にか帰らん」と歌った故郷の駅に降り立った高野を、大勢の人が出迎えたそうです。

